



神奈川県環境学習リーダー会

会報 No. 37

2004年
2月3日

役員会報告 (事務局長 山田あや子)

2月役員会 (2月9日開催)

- 平成16年度総会に関して：
近藤代表の下記提案に賛成。
 - ・ 役員の兼務を最小限にして役員数を13名に増員
 - ・ 事業計画案に見学会等の新企画を盛り込む
 - ・ 環境アドバイザー協力金、特別事業などK・リーダー会の収入の特別会計化環境モニタリング部会を「水環境部会」と「大気環境部会」に分割する案を佐伯部会長が説明。
- 「環境にやさしいリーフレット」作成について石丸副代表の報告：
原案は県へ提出済(2月3日)、発行は3月初旬の予定、著作権は県が保有。

3月役員会 (3月8日開催)

- 環境モニタリング部会の分割案に下記条件付で賛成。
条件：3月13日の同部会において、分割後の「水環境部会」「大気環境部会」の方向性と部会長を決定する。
- 平成16年度総会に向けて、次期役員体制、事業報告・事業計画案、収支状況・予算概要を検討。
- 第2回意見交換会(3月4日)での意見を討議。
出席者数(19名)を増やす方策(より魅力ある投げかけ)の必要性を反省。
K・リーダー会の受託事業への講師依頼書の早期発行を決定。
規約によりK・リーダー会に入会できない環境実践者支援講座修了者を賛助会員へ勧誘することを決定。講座終了時の勧誘を環境科学センタ

カット：サクラ

品種はエドヒガンザクラ。葉より花が先に開き、淡紅色から淡白色まで花の色はさまざま。
樹齢が長く、各地の名木や巨木はほとんどエドヒガンである。
花期は3月～4月。

ーに依頼することも決定。

希望する会員には会報を郵送ではなく電子情報で送ることを決定。

来年度の役員会と会報発送作業参加者に交通費実費の50%を支給することを決定。

- 横須賀市「すかつ子セミナー2004」への参加・講座団体の名称として「K・リーダー会」を使用することの許可願いを承認。

3月臨時役員会 (3月30日開催)

- 3月13日開催の環境モニタリング部会議での討議結果の報告があり、同会の分化・分割について、3月役員会での条件を満たしているとして、規約第14条により承認。
- 総会に向けて、各議案を討議。
- 報告事項：
「環境情報コーディネーター」に当会から13名の応募があったこと、環境科学センター生駒氏から、平成16年度の「子ども環境体験教室」が昨年同様の内容で開催したい旨の申し入れがあり、関係責任者で討議されとの報告があった。

4月役員会 (4月5日開催)

- 環境科学センターの生駒氏が「16年度子ども環境体験教室」について説明。
- 総会に向けての準備を中心に討議。

会報を電子情報で送ります

会報は会員全員に郵便で送付していますが、希望する会員には会報を郵送ではなく電子情報で送ることが役員会で決定されました。

会報を電子情報で送る方法、希望調査などについて後日会員へお知らせいたします。

広報部

別刷りがあります！

今37号は頁数が多いため、下記の別刷りを設けました。

別刷り - 1：部会活動

別刷り - 2：総会案内と総会資料

10回を迎えた 市民環境活動報告会 開催される

第10回市民環境活動報告会実行委員長 石丸 博司

2月15日第10回市民環境活動報告会が神奈川県環境科学センターと当リーダー会の共催で、かながわ県民センター2階ホールで行われた。

報告者も当リーダー会1期から11期の方々と、また神奈川県地球温暖化防止活動推進員、NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会の方と幅広く、活動分野も環境学習・温暖化防止・自然環境保全と多岐にわたっていました。160名以上と参加者も昨年を越えて盛況に開催されました。

開会の挨拶 神奈川県環境科学センター
所長 吉見 洋氏

環境学習リーダー養成講座第1期生を送り出した生みの親であること、センターでの研修プログラムの見直しと充実・学習設備の充実に取り組んでおられる話。また今年度は環境教育元年であること、ますます環境活動の第一戦で活躍している我々への期待が寄せられました。

以下基調講演と発表要旨を紹介します。(敬称略)

基調講演及び8件の報告発表

環境家計簿モニター事業から見えるもの

- 秦野市環境家計簿モニター事業 -
(財)省エネルギーセンター 普及指導員
北村 博子

環境家計簿記録とは、自らの生活の、環境への負荷を数値としてみる。戦後、焼土から立ち上がった日々の暮らしを、この日本の風土性から乖離した科学技術に依存し、豊かさとは、「物質的に豊饒」であると錯覚してきた。そのツケを、未来世代に押し付けるわけには行かない。人間の欲望とは、際限なく広がるもの。今こそ私たちの、知恵が必要とされている。

行政と連携しての地球温暖化防止に向けた省エネナビ等の取り組み

神奈川県地球温暖化防止活動推進員
温暖化防止アクショングループ 香川 興勝

小田原市で行っている省エネナビやワットメーターを用いた報告。5家庭で前年同月比6%~23%の使用電力量の削減効果があり。各家庭の平均 対前年度1.7ヶ月分の電気料金と年間302kgのCO₂排出量の削減につながった。また、電気だけでなくガスやガソリンの使用量削減にまで波及しており、この効果も大きい。

横浜市金沢区の生涯学級による環境学習
- 企画運営体験の紹介 -

環境問題学習会 村山 和永

平成11年から3年間区役所とタイアップし、参加型企画運営として何をしたか、苦労したこと、どんな成果があったかを報告。討議結果から「自分たちが学びたいことを企画運営・実施する」という事で、共通の認識を持つ学習、地球レベルと地域レベルの両方から、見学の実施。など骨格が出来るまで半年。苦労したことは募集活動です。4年目は数名が加わり新しいグループによって準備が始まっている。

子ども環境体験教室について

神奈川県環境学習リーダー会
新規プロジェクト担当 木本 光昶

環境に係わる体験をすることによって、環境問題の重要性を考えるきっかけを提供すること、環境保全活動を実践している環境学習リーダーと直接触れ合うことを趣旨として教室を開催した。その結果、「子どもたちに感動を与え、環境について考える」という所期の目的を達成することができた。

小中学生の土曜体験プロジェクト

“すかっ子セミナー”
かながわ環境カウンセラー協議会
横須賀「水と環境」研究会 高橋 弘二

土曜日が休みになった小中学生を対象に、私たちの市民活動を子どもたちに体験してもらおうと、自然系5コースのほか福祉、国際理解など10コースを19市民団体で企画運営しました。参加者は約70名、5月のオリエンテーションから10月まで毎月1回、各コース独自のプログラムを実施し、最後に成果発表会を行いました。

基調講演

改定された神奈川県ローカルアジェンダ
(新アジェンダ2.1神奈川の策定と今後の課題)
かながわアジェンダ推進センター
代表理事 鍋木 孝昭

新アジェンダは理想からすると距離はありますが778人から1,110件の意見。24回の各地での討論会と26回の検討会を行いました。結果「ビジョン」_」「アクション」_」「推進体



講演する鍋木氏

制」の3部構成です。今後の重点は効果的な推進体制です。

そのため「かながわアジェンダ推進センター」の発足と、アジェンダの実施主体である「かながわ地球環境保全推進会議」と密接に連携し、実践行動である「マイアジェンダ」の登録とその推進を展開することです。関係各位の強力なバックアップを期待します。

地域の自然観察愛好者から

目久尻川の環境保全と再生への活動へ

泉 重郎

今年度7月からセミリタイメントとなり、自由になる時間が増え、環境保全と再生に身を起こした目久尻川の活動を報告します。私の住む地域には「あやせふるさと環境市民の会」「目久尻川ふるさとネットワーク」「座間林外を守る会」海老名市の「目久尻川をきれいにする会」等行政の垣根を超えて、流域の住民がネットワークを結んで清掃を実施しています。60名以上が集まり、市井の人々の力を感じました。そして鮎の遡上が増え、小魚が生息し、川辺の道にチップを敷き、花壇作りと好評を得ています。

放置されていた公園内林地の手入れを公民館の友と行う

座間市 森森クラブ 岩田 寿郎

私達は公民館の老人大学の学生です。自主講座で手近かな公園内の小さな森の手入を課題にした。隔週水曜日下草刈り、除伐、落ち葉掻き、清掃を続け、今ではメンバーも増え、市の森の手入運動の作業地に指定され、当日は市民30余名が参加、作業は大きく進展した。この林地はササが主体で、それを刈り払い日光が入るように手を入れれば昔の森の面影を取り戻せると期待している。

酒匂川、及び支流、用水探水隊活動報告

酒匂川及び支流、用水探水隊 斎藤 昭一

酒匂川は県内2番目に大きな川、探水隊は平成13年に誕生した。はじめは網の使い方、採集捕獲の勉強から。県と市民グループが1つになって行動。14年4月酒匂川支流において外来種である「ヨコエビ」を採取。どのような経路で日本に入ってきたのか、

大変な生命力と繁殖力である。流域のメッシュ図に配置、生態系の研究もまだ入り口。活動の過程で素晴らしいリーダーとの出会い。また「ミズムシ」「シマイシビル」の調査に発展したい。

第10回市民環境活動報告会を終えて 閉会の挨拶
実行委員長 石丸 博司

開会の挨拶で神奈川県環境科学センター 吉見所長から環境学習リーダー1期生 生みの親であるなど、科学センターに於ける各種プログラムの変更や施設の改善、今年は環境教育元年である点、我々の活動と10回目という歴史ある市民活動報告会の重みを感じました。

各報告者の報告課題の内容と深み、活動の根気と環の広がりは大変充実したものと感服しました。また発表者と参加者の熱心な質疑応答。164名の参加者と大変盛況な報告会が出来ましたことは、関係各位のご努力とご支援のおかげと思っています。本当に有難う御座いました。

発表者の皆様には持ち時間が25分という制約もあったと思います。講演要旨に今一度目を通して下さい。会場に足を運べなかった皆様、講演要旨集は科学センターに残部が何冊あるそうです。早めにご連絡下さい。

また終了後の交流会も大勢の皆様に参加で大変盛り上がりました。重ねて御礼申しあげます。



会場では県のご協力により制作したパネルの展示も行われました

15年度第2回意見交換会が開催されました

事務局 高橋 尚道

去る3月8日(木)午後1時から、ひらつか市民活動センター会議室で、K・リーダー会の本年度第2回目意見交換会が開催されました。

今回は、参加者19名という、いささか寂しい集会になりましたが、反面、出席者の発言機会が増えたために議論を深めることが出来、有意義な会にな

りました。

進行は、近藤代表の開会挨拶に引き続き、清水前代表から「横浜市環境保全活動実態調査から見えるK・リーダー会」と題して、横浜市内で活動している約250団体(回答は118団体)の平成13年度における「会費と活動資金」、「活動資金と事務所」、「会

員の数と活用」について統計資料を基に説明があり、今後のK・リーダー会の課題として、次のような提案がありました。

- 1) 活動資金の充実
- 2) 専属事務所
- 3) 会員資格の見直し
- 4) 環境実践者養成講座の主催
- 5) NPO
- 6) 他団体との交流の強化

次いで、出席者の自己紹介があり、個々の会員から活動分野、考え方や悩み、K・リーダー会に対する想いなどが語られました。

次に、近藤代表から「K・リーダー会の現状と問題点」として以下の説明がありました。

1. 会員数が平成14年度末の184名から、現在は173名、賛助会員2名となっている。
会費の未納の方に対しては、役員が退会意思確認を行なった。
2. 依頼事業の増加に伴い、会が請ける事業に関しては、内規で次のように定めた。
(1) 会が直接請け負った事業は、全額K・リーダー会の収入とし、必要経費を担当者に支給する。
(2) 会が請けて、個人に委託する事業は、請負金額の10%以上を協力金として会に納めてもらう。
3. 「新アジェンダ21 かながわ」の取り組みについては、神奈川県地球環境温暖化防止推進センターに「NPO法人かながわアジェンダ推進センター」が指定された。今後、K・リーダー会が中核的役割を担って、子どもの環境学習などに携わっていききたい。
4. 事業拡大に伴う措置として、特別会計制度を採用したい。

続いて、黒澤さんから、環境活動助成制度(仮称)について、「神奈川県内において、会員が環境学習や環境保全活動で中心的な役割を担って、地域に大きく貢献している個人又は団体を表彰することによって地域活動を支援することを目的に、表彰規程を新設したい」との提案があり、「表彰規程(素案)」が示されました。

また、柳川さんからは、監事の機能強化と正会員と賛助会員の識別を明確にするための規約改正案についての趣旨説明がありました。

引き続き行なわれた意見交換は、質疑応答を兼ねたものとなりました。

1. K・リーダー会の事業展開について

現在は部会に入っていない会員には、気軽に集える場があまり無い。会員が気軽に入れる輪を作る必要がある。

会員の地域活動の実態をよく把握する必要がある

あるのではないか

会をもう少し開かれたものにするために、入会資格を緩和してはどうか。

環境実践者養成講座の履修者が、部会に入らないとK・リーダー会の入会資格がないと誤解している人も居るので、誤解を解いて一人でも多く入会してもらえるように努力する必要がある。

環境モニタリング部会を「大気環境部会」「水環境部会」に分けたいとの件について。

等、幅広い意見が出された。

2. 環境活動助成制度について

表彰規程の表彰対象者が抽象的。

現在の財政状況で表彰制度を設けるのには時期尚早ではないか。

「方向性と実効性」を分けて考えることが大事。方向性が良いのであれば実施時期を考えれば良い。慌てなくても良いのではないか。

K・リーダー会には影でがんばっている人が大勢いる。それを評価するのではなく、また、お金の問題でもなく、気持ちを込めて表彰させていただくという名誉の表彰ということもある。地域活動サポート部が各自治体の活動支援情報を調べ、会報に載せて欲しい。

等、多くの意見が出されました。

3. その他

(1) 会報の送付方法として、希望者には、メーリングリスト共有ホルダーを使う方法も良いのではないか。

(2) 会報に広告を載せてはどうか。(発行部数が少ないので広告を取るの難しい)

(3) 賛助会員を積極的に勧誘すべきではないか。

(4) 役員の交通費補助はもう少し手厚くする必要があるのではないか。(現在は役員会出席の実費30%を補助)

等の提案がありました。

今回出席した会員から出された意見や提案は、今後役員会で検討することになりますが、今回の意見交換会を振り返ってみて、会員の活動分野、活動内容、K・リーダー会に対する期待や想い等が、如何に幅広く、且つ奥深いものであるかが浮き彫りになったように感じました。

現在、我がK・リーダー会は事業運営、財政、組織、人材発掘等の面で、様々な問題を抱えておりますが、全会員が進んで活動に参画できるような会に育てるべく役員一同努力を傾けていきたいと考えておりますので、会員各位の一層のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

第3回親子で楽しむ環境展実行委員会報告

実行委員長 北村 博子

平成16年6月13日(日)10:00~16:30
 かながわ県民センター 1階展示場 開催

当K・リーダー会が、ボランティア団体の仲間内発表会的自己満足の世界から一歩出て、「新アジェンダ・11分野行動メニュー実行」「マイアジェンダ登録促進」に向けて「新アジェンダ普及啓発事業」として第3回「親子で楽しむ環境展」を実施することは、現状の「地球環境問題」を県民に訴え関心を喚起し、神奈川県が全国に先駆けて「地球温暖化防止」に対する県民の地球環境問題を始めとする環境意識とそれに伴う実践力の高い地域にしていく責任を担うことであり、大きな課題を背負ったことになる事を自明のこととして受け入れる必要があります。

以上の経緯からご理解いただけるように、この第3回「親子で楽しむ環境展」は、第2回までの環境展からは脱皮して、展示内容の斬新さと充実については勿論のこと、「新アジェンダ21かながわ」「マイアジェンダ制度」に登録しているNPO等のグループとしても、来場者獲得に向けリーダー会全員の知恵と力を必要としています。

去る3月4日平塚で開催された平成15年度第2回意見交換会への参加者が、役員を加えても19名でしかなかったことを考えると、このK・リーダー会の体質は、リーダー会活動に対しては積極性に欠ける傾向があるように見受けられます。しかし、各地元ではそれぞれ活躍しておられる会員が多いことと思いますので、リーダー会全体の企画に対して会員が協力して会の運営を盛り上げていく力を特にお貸し願いたいと思います。

平成16年度環境展は、「新アジェンダ普及啓発事業」として開催しますので、結果については、外部からの評価も受けることになります。参加グループは勿論、K・リーダー会として、内容を充実させ、この「親子で楽しむ環境展」が「未来の地球のために」県民に親しまれる形で持続可能な社会へ向けて「新アジェンダ21かながわ」推進の足がかりとなるように願っています。

上記をご賢察の上、会員の皆様のご理解ご協力を頂きたいと願っています。又、当日会場運営・展示会来場などにもご協力をお願い致します。

グループ名	展示テーマ	キャッチフレーズ	展示項目	責任者 参加者
			体験項目	
1) エネルギー部会 エネルギー会	'80年代後半の生活実感 と楽しい省エネ体験・学習	皆で楽しく 省エネ	'80年代後半の生活 エコカルタ取り エネルギー体験・実験	大森 8名
2) ケナフ部会	ケナフを育てて楽しもう	今、なぜケナフ	1年間の活動状況 ケナフ紙漉き・ケナフ製品	荒谷、小川 安部、小糸
3) 廃棄物 リサイクル部会	地域から循環型社会の 推進	もったいない!! 4R推進	4Rパネル エコライフ健康診断カルテ提案	石丸 3名
4) 水環境部会	自然を知ろう	身近な川で調べよう	水生生物のパネル 調査模様パネル	斎藤(昭) 古谷、杉崎
5) 大気環境部会	身近な環境を知ろう	大気環境を調べる 生き物を調べる	エコアナライザー 朝顔・タンポポ現物	(佐伯) 6名
6) GO3の会	環境パズルで遊ぼう	君は地球を 守れるか	H16年度ゴミ分析結果 環境パズル・罰ゲーム	内藤、秋吉 狩野、(原圃)
7) 地球っ子ひろば	面白いよ 作ること	子どもと手を取り 青い地球を	1年間の活動状況 リサイクル工作	斎藤(美) 山田、岩本
8) 平塚をみがく会	“安心安全”のまちづくり	落書張紙は まちの景観を壊す	活動報告 まちへ出て体験 パネル・写真	原圃 1名
9) よみがえれ 金目川	暴れ川は 恵みの川	川は、生きている		柳川 1名
10) あさひまちづくり	横浜市旭区での生涯学 級の取り組み	地域での町づくり を目指して	パネル ポスターセッション	吉川 八木下
11) リーダー会	子どもアジェンダ	子どもたちの考える 30年後のかながわ	写真	* (木本) 3名
12) 本部				北村 5名

* (木本) は暫定責任者

NPO等との連携による『子どもたちからのメッセージ』 公表事業完了

代表 近藤 作司

県環境計画課では、昨年10月24日に策定された「新アジェンダ21 かながわ」(会報35号参照)を受けて、題記の事業を企画されました。このアジェンダは、持続可能な社会を目指し、県民・企業・行政・NPO等が具体的な行動を起こす事が重要であるとしています。その行動を起こすきっかけとなるようにとの願いから小学生を対象にこの事業が組まれました。

「新アジェンダ21 かながわ」の趣旨を理解し、自分達が30年後にどんな社会に住んでいきたいかなどを考え、意見を出し合い、纏めてみようとする場(ワークショップ)を設定し、そこから出された意見や将来像などを取り纏め、大人への提言(メッセージ)として公表する事になりました。

このワークショップを環境学習等に実績のあるNPO等に委託する旨の新聞発表が出ました(平成15年11月20日)。応募の提案内容は

- (1) ワークショップの実施想定校
- (2) ワークショップの実施方法(人員、対象児童数、学習方法等)
- (3) 提言取り纏め方法
- (4) 応募期間は11月21日から11月30日まで
- (5) 提出書類は a 事業提案書
b 活動実績
c 定款、規約等

などでした。

K・リーダー会としては、応募期間が短い事から、地域活動特に小学校との繋がり深い会員を動員して想定実施校を選定しました。

当初県の計画では、県下10校程度で実施するとの事でしたので、当会は平塚市と川崎市の各1校で応募しました。その後追加公募があってさらに松田町の1校を追加応募しました。前2校は12月3日採択され、追加校は12月12日に採択通知が届きました。

実施しました学校、学年・組、児童数、実施日は下記の通り。

- 平塚市立みずほ小学校 5年1・2組、43名
平成15年12月5日、11日
- 川崎市立小田小学校 5年1・2・3組、85名
平成16年1月23日、2月2日
- 松田町立松田小学校 5年3組、30名
平成16年1月30日、2月6日

事業実施に当たっては、事業計画書の提出、委託契約書の交換、委託業務完了届・公表事業実施結果報告書の提出を以って本事業を終了しました。

みずほ小学校の実施状況等については会報36号に報告いたしました。小田小学校及び松田小学校については本会報に報告いたします。

「子どもたちからのメッセージ」は、県下12校のメッセージ・ワークショップ風景・30年後のまち(図画)などが纏められ、平成16年3月24日付神奈川新聞の1ページに掲載されました。また本事業のねらいなどを特集したテレビ神奈川の番組が3月14日(日)に放映されました。

これからもこのような事業に参加し、「新アジェンダ」の普及・実践行動にK・リーダー会として携わっていく事に努めたいと思います。

松田町は町をあげて清流と文化を目標 松田小学校の「想像してごらん2033年のビジョンは豊か」

柳川 三郎(平塚市)

私達(近藤代表、北村博子、古谷敏夫、岩本哲郎、斉藤美代子、柳川三郎)の6名は本会報の前文に掲載の通り松田小学校で「子どもたちからのメッセージ」神奈川県公表事業を実施いたしました。

松田小学校におけるワークショップの特徴を見ると、まずグループ名が、ハウス建物グループ、未来の松田商店街グループ、自然にやさしい発電グループ、未来の松田自然グループ、さまざまな環境グループ、美優亭風流リサイクルグループ名で新アジェンダ21の分野名でないことです。そして、今回

のワークショップの前に担任の先生は事前の勉強を実施されていながら、まだ準備が足りないとの言葉に集中力の高さを読み取りました。又、グループごと子どもたちが必死に身体全体から、私たちと将来の松田町を良くしようとのほとばしる熱意に私達は引き込まれました。

子どもたちは、身近なことからインターネットを活用してハイレベルの夢を描いてくれて私はすごいな、大人も負けれないなと痛感しました。内容は風力発電を新設したい、空を走るターボ車、植

林のボランティアへの参加、化石燃料が及ぼす地球温暖化、核融合発電、環境にやさしい建物を作る、鳥のえさ台をたくさん作って置く、昔のような店、使えなくなった布のごみをリサイクル、イーエムボカシで生ごみを活用等です。

私はこの事業で最後に教室を出る時、子どもたち

と別れがたい心情を持ち4校時を活用しての事業に参加出来たことを喜びとしています。会員の皆様、新アジェンダ21はスタートしてまもなく半年です。皆様が手をあげて実のある活動の輪を広げていきましょう。

「子どもたちからのメッセージ」 個別ワークショップ：川崎

北村 博子（横浜市）

横浜市鶴見区に隣接する、川崎・小田グラウンドの近く、JR川崎駅から路線バスで20分ほど、バス停を後5つほど乗り続ければ臨海工業地帯へ出てしまう一画に、小田小学校はある。此の辺りは、冬景色の最中とはいえ、緑は目に入っては来ない、京浜工業地帯に続く都市環境住空間の中にある。

実施校：川崎市立小田小学校5年1、2、3組、85名

実施日：平成16年1月23日、2月2日

実施時間：第1WS 8:45~15:00(1校時~6校時)

第2WS 8:45~15:00(1校時~6校時)

WS実施者：主任 北村博子、近藤作司、柳川三郎、
斉藤美代子、木本光昶、大森勝

第1WS

【ステップ1】

(8:45~9:25)(10:45~11:25)(13:30~14:10)

WS実施経緯・目的・意義について、「公害のまち川崎」の時間の推移と環境の変化について、昭和初期からの変化「過去・現在」を振り返り、「未来」についてイメージが膨らむように、「ビジョン」を「小鳥の囀り」のBGMで話を進める。WSは、事前に各組で児童希望により選択したグループで進行。

【ステップ2】

(9:25~10:15)(11:25~12:15)(14:10~15:00)

各グループで「30年後のまちの姿」について、話し合い・意見を出し合い・ポストイットに児童1人ひとりが、意見を書き出し、模造紙に張り付ける。ポストイットに書き出された「未来のまちの姿」を、内容で括り、小さな「島」を作る。できた小さい「島」

は、より大きな内容を包括する「島」に纏める。出来た大きい「島」にそれぞれタイトルを付け、各グループで、「30年後のまちの姿」を表す「タイトル」を付ける。次の3項目を宿題に。

「30年後のまちの姿」を絵に描くこと。

「自分がやってみようと思うこと・皆に広げたい行動」を書くこと。

グループのタイトル発表者を決めること。

第2WS

【ステップ3】

(8:45~9:05)(10:45~11:05)(13:30~13:50)

「ステップ2」で纏めた「タイトル」を再検討。各グループの「タイトル」を各グループ発表者により発表。クラス全員は、クラス全体の「30年後のまちの姿」を纏めることを考えながら聞く。

【ステップ4】

(9:05~10:15)(11:05~12:15)(13:50~15:00)

組全体のキャッチコピー「子どもたちからのメッセージ」は、各グループの「タイトル」を参考に、組のキャッチコピー作成希望者によって纏められ、組で発表。

【一言宣言】

「自分が出来ること・皆に広げたい行動」を組の全員が発表。最後に、セヴァン・カリス=スズキのリオ会議で大人達を圧倒させたスピーチを紹介。彼女の勇気が、小田小学校児童の実践への力となることを願って、このWSを終了した。

誰にでも出来る環境に優しいくらしリーフレットは 表題「ライフスタイルを見直そう！」で完成しました

石丸 博司（伊勢原市）

前36号でご案内した県民部消費生活課から依頼の標記プロジェクトは「ライフスタイルを見直そう！」でお目見えしましたので、同封します。表題（キャッチフレーズ）は松沢知事が使っている言葉になりました。

ご覧頂いて如何ですか、なかなかうまく出来たとお褒め戴けますか。

リーダー会の受託事業として取り組んだ開発の経緯と、その前提にある考え方、及びアプリケーションとして今後考えていることをご案内します。

1. 開発の経緯

「誰にでもできる環境にやさしい実践マニュアル」
(仮称) 県民部 消費生活課より下記リーフレット作成依頼を受ける(12月中旬)

作成目的:

県として、環境にやさしい暮らしを普及する為、「実践マニュアル普及版」を作成し、様々な機会(講演会、研修、イベント等)を通じて県民配布、普及啓発を行ってきた。

しかし“環境にやさしい暮らし”の必要性について、県民の認識はかなり浸透してきていると思われるが、日常生活において具体的な実践行動や習慣化という面では不十分な現状である。

こうした現状を踏まえ、県民が“自分でも出来る”と思える簡易なリーフレット「誰にでもできる環境にやさしい暮らし実践マニュアル」を作成配布することによって、環境にやさしい暮らしの意識啓発と行動の定着化を促進する。

2. 作成に携ったメンバーは9名(敬称略)

清水 幸雄 北村 博子 早野 木の美 岩下 次郎 渡辺 進次 山田 あや子 市川 文子 渋谷 幹夫 石丸 博司 で精力的に取り組んで頂き有難う御座いました。紙面を通して御礼申し上げます。

3. 開発に当たりのガイドライン

多くの家庭で日常生活に関りの深い、なお且つ環境への影響が高いと思うものを抽出する

取り上げる分野は主に廃棄物とエネルギー。

専門用語は出来るだけ使わずに、誰にでも分かり

やすいコトバで、現状について質問する。

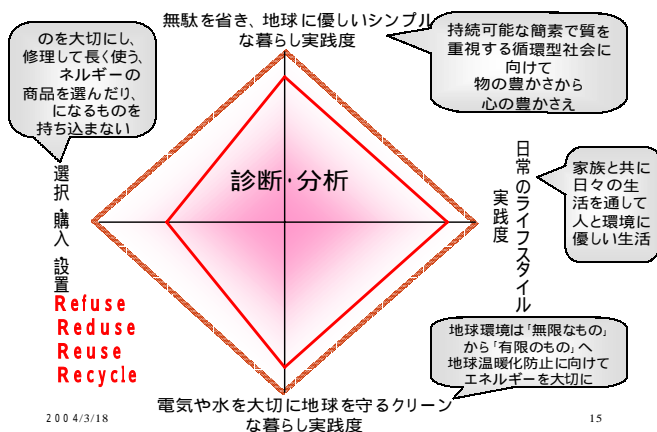
記入者があまり迷わなくても答えられる様な表現と尺度で纏める。

今まで関心が少なかった人でも、手にとってやってみようと思える様な纏めにする。

以上です。ページ毎の構成はご覧頂いた通りです。お使い頂いてお気づきの点がありましたらお知らせ下さい。

尚今後の活用について県の方から大いに期待されています。活用場面はいろいろ考えられます。試みて下さい。

少し時間が掛かりますがパソコンを活用して、診断結果をライフスタイルの変革に結び付けて行くべくアプリケーションを検討していきたいと思えます。私案ですが下記のようなツールを考えています。ご期待下さい。



「環境モニタリング部会」を廃し 「大気環境部会」、「水環境部会」設立へ

環境モニタリング部会 佐伯 秀夫

「環境モニタリング部会」は、平成10~12年に環境科学センターが開発した「誰でも参加できる環境モニタリング手法」を実践することにより、実施面での検証を図ることを目的として平成12年9月に発足したが、丁度3年間にわたる実践結果から、モニタリング方法の難易状況、普及させる上での問題点等、かなりの知見が得られたものと考えている。

一方、同技法が大気、水質等の調査を主題としているところから、子ども環境体験教室等における大気、水質等に関する講座は環境モニタリング部会が担当してきたが、このたびの環境教育推進法の制定により、K・リーダー会として大気環境、水環境に関する指導體制の拡充強化は急務になってきていると考える。

そこで、このようなニーズに対処するため、平成16年度より、環境モニタリング部会を大気関係の環

境学習を担当する「大気環境部会」と水関係の環境学習を担当する「水環境部会」とに区分し、夫々新規部会として設立するとともに、従来の環境モニタリング部会は廃止する。

なお、従来、環境モニタリング部会が実施してきた自然系の「タンポポ、ツバメ、ジョロウグモに関するモニタリング」は、大気環境部会が引き継ぐものとする。

部会担当世話人

大気環境部会： 佐伯 秀夫

水環境部会： 斉藤 昭一

上記の件、3月30日開催した臨時役員会にて議決された事を証する。

K・リーダー会代表： 近藤 作司

「エコいろはカルタ」

横浜「暮らしの工夫展」で市長賞に！！

神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会 下条 泰生（北村 博子）

このたび、横浜市女性団体連絡協議会主催・横浜市教育委員会共催の第50回「暮らしの工夫展」で、当会応募出品の「エコいろはカルタ」が、横浜市長賞を受賞しました。

江戸時代に普及し、遊びながら「暮らしのマナー」や「暮らしの知恵」を覚えた「いろはカルタ」にならい、「エコいろはカルタ」は、当会が子どもたちへの省エネ活動の中心ツールとして開発したものです。

「エコいろはカルタ」は、人の暮らしが依存している、水・大気・土壌・海・森林・川等自然の大切さと、ムダなエネルギーを省く「省エネ行動」と「リサイクル等の4R」について、遊びの中で「エコライフマナー」を習得しようとするものです。当会主催の「親と子の楽しい省エネ教室」や、小学校総合的な学習の時間の「省エネ学習」での実践と、読み札の内容・取り札の分かり易い絵の描画表現、「説明文」に省エネ行動を実践した場合の具体的な効果を数値を上げて説明しているところが、『子どもたちも楽しみながら地球温暖化対策の実践活動へと取り組める



市長賞記念盾を囲んで

により「横浜市長賞」に決定したことは、此の工夫展で誠に画期的なことであります』との主旨の講評があった。

3月10日の表彰式では、当会代表は受賞者を代表して、「未来世代に持続可能な社会を遺してゆくために、新しいライフスタイルの確立が必要とされているので、『暮らしのリフォーム』を通して、皆の少しずつの力を大きな力に合わせて協力していけるようにしたい」と、謝辞を述べた。

当「暮らしの工夫展」は、読売新聞社・神奈川新聞社後援でもあり、表彰式当日新聞紙上に記事が掲載されたことで、横浜市環境事務局「G30」担当者の目に留まり、横浜市緑区タウンミーティング「G30活動事例発表研修会」での展示の依頼があった。



暮らしの工夫展
横浜市長賞 展示

今回のように「環境・エコ」を直接唱わない活動分野の中で評価を受けたことは、一般の人たちの環境問題への関心を喚起し、環境意識の一般市民への広がり浸透とを考え合わせると、意義深いものがある。

尚、経済産業省資源エネルギー庁「エネルギー・環境を活動目的とする

NPO 法人等新エネルギー・省エネルギー関連活動事例集」にも、この「エコいろはカルタ」を記載した当エネルギー会の活動事例が紹介され、eccj ホームページに掲載されていることを追記します。

【<http://www.eccj.or.jp/npo/02-03-06.html>】



横浜市長賞盾

ように工夫されている』として評価されたものです。

又、この「暮らしの工夫展」は、「暮らしに役立つこと」を工夫して、「古くなったり壊れたりした衣服・小物等に、工夫を凝らし身の回りの生活用品として新しい生命を吹き込もうという企画」で主婦達が励んできたものであるが、『現今、モノがあ

ふれる時代の暮らしの工夫に行き詰まりが見え、「暮らしの工夫展」開催立ち消えの危機に瀕した時を経て今、50回の記念すべき時に、「環境時代」を表すこの「エコいろはカルタ」が、審査員全員の投票



ホームページに掲載された「エコいろはカルタ」例示

= 豆知識のページ =

秦野盆地の湧水群の名水復活

汚染判明から復活までの15年の軌跡

広報部 木本 光昶

秦野市は、丹沢山地と大磯丘陵に囲まれ、山地から流れ込む豊富な地下水を湛える盆地にあり、豊富な地下水が利用されています。

昭和60年1月に当時の環境庁が全国名水百選の一つに、この「秦野盆地湧水群」を選定いたしました。

ところが、平成元年1月「秦野盆地湧水群」の代表的な湧水である「弘法の清水」が発がん性の疑いのあるテトラクロロエチレンなどの有機塩素系化学物質に、汚染されていることが報道され市民に大きな衝撃を与えました。

このことをきっかけに、秦野市では地下水の水質改善に本格的に取り組みを始めました。そこで、この有機塩素系化学物質の汚染除去事業に当初から取り組んでこられた秦野市環境農政部環境保全課津田特定技幹に、お話を伺いました。

このことをきっかけに、秦野市では地下水の水質改善に本格的に取り組みを始めました。そこで、この有機塩素系化学物質の汚染除去事業に当初から取り組んでこられた秦野市環境農政部環境保全課津田特定技幹に、お話を伺いました。

1. 汚染実態調査

市が最初に行ったのは、全市的な汚染の実態を把握することです。平成元年、市内の既存の井戸、湧水など326地点を調査した結果、41地点で基準をオーバーしていることが判明しました。

地下水からはテトラクロロエチレンやトリクロロエチレンなど10の有機塩素系化学物質が検出されました。

2. 健康被害防止対策

緊急対策として地下水のみを飲料水として使用している世帯に対して市営水道への切り替え工事を実施しました。

3. 地下水汚染対策審議会の設置

平成元年10月、今後の地下水汚染対策の進め方について専門家の意見を聞くために、学識経験者、企業代表者、市民代表、市議会議員、行政機関の13名の委員からなる「地下水汚染対策審議会」が設置されました。

審議会からは早急に着手すべき施策として、未然防止、汚染機構の解明、健康調査の3項目について答申がありました。

この答申を受けて、アンケートによる使用実態の把握をしたり、使用事業者の立ち入りを、



未然防止や汚染対策の公害防止協定を14社と締結しました。

また、汚染機構解明のために市内を流れる水無川を中心に、神奈川県と秦野市が分担して調査を行いました。

これらの調査によって有機塩素系化学物質の汚染の実態が明らかになってきました。そして、市民健康審査の結果解析から、

地下水汚染の利用者の多い地区と他の地区と比較してもガンの発生率などに差異はなく、健康影響も認められないという結論に至りました。

4. 地下水汚染防止条例の制定

平成6年1月に、米国のスーパーファンド法に準じる「汚染者負担の原則」を軸にした「秦野市地下水汚染の防止及び浄化に関する条例」が施行され、関係事業者に地質汚染の浄化が義務づけられることになりました。

地質汚染の浄化を義務づける条例は国内では初めてです。条例施行後、関係事業者45社が詳細調査・浄化事業に着手し、38社が浄化事業を終了（平成15年3月現在）しました。

市が行った地下水の浄化手法は地下水の人工透析の浄化事業と呼ばれているもので、その原理は汚染された地下水を揚水処理し、下流域の地下水脈に地中還元するものです。

5. 水質改善の状況

この浄化事業により、取り組みの発端となった「弘法の清水」を始め、秦野市内の南地区の湧水群に顕著に水質の改善がみられるようになりました。

平成14年2月以降、「弘法の清水」のテトラクロロエチレン濃度は環境基準を下回っています。

6. 名水復活宣言

今年の1月、小田急秦野駅近くに湧き出ている「弘法の清水」で二宮忠夫市長による名水復活宣言記念式が行われました。汚染判明から15年の歳月が経過してようやく地下水浄化の成果が得られたこととなります。この清水を長年にわたって管理する地元水神講のみなさんも心から祝福して

いました。

[取材後の感想]

地下水は一度汚染されると、その汚染規模にもよりますが、回復には莫大な費用と時間がかかることは一般に知られていることです。

秦野市の場合も土壌等の修復メーカーに見積もりを取ったところ、浄化に 200 億円と 50 年以上の年月が必要だといわれ、津田特定技幹らは途方に暮れてしまったそうです。

しかし、津田特定技幹をリーダーとする特別チームの寝食を忘れた多大な努力によって、事業費約 5 億円（見積もりの四十分の一）浄化期間も 15 年という早さで地下水汚染対策事業を完了させることができました。

この成功の秘訣を尋ねたところ、独自のアイデアによる手づくりの装置を活用したこと、そして

企業の従業員やクリーニング店主らが積極的に協力してくれたことが大きな力になったと答えてくれました。

行政、企業、市民の密接な連携による大きな成果であると感銘を受けました。



地下水浄化装置

ひらつか市民・大学

会員の広場

交流フェスタ 2004 を終えて

原園 信夫（平塚市）

昨年 9 月に始まった市民・大学交流の年実行委員会。環境政策課から無報酬での参加依頼があり、気楽に引き受けました。今回は、「市民と大学側で計画して欲しい、しかも 15 年度限り」という内容でした。（市民大学交流事業は別に存在しています）。実質 5 ヶ月間で、19 回に及ぶ会議をもち（通常勤務者がいる関係で夜 7 時から 9 時まで）、日程と何をやるかを決定し、実施案（出演者交渉、予算案作成、広報への掲載、参加者募集）を組むという非常にタイトなスケジュールでした。

実施内容を【環境と科学】【スポーツ】【福祉】【音楽】の 4 テーマとすることが 11 月決定。実行委員 8 名の割り振りを決め、おのおのの企画に入りました。

【環境と科学】は私と公募委員の岩澤さん。そして東海大学事務局の松木さん、神奈川大学事務局の渡辺さんと打ち合わせを開始しました。

テーマは子ども対象のもの、大人対象のもの、そして市民団体と学生が論じあうコーナーを企画することになりました。

子どもを対象は東海大学が受け持ち「楽しい数学教室」では 40 名の子どもが参加し、誰にもできるトランプの不思議なマジック、はさみで切りとった図形がいろいろな形を作る幾何学の不思議、など数字、幾何学の不思議に見ている大人も楽しい授業でした。【楽しい理科教室】では 50 名が参加「太陽光



楽しい数学教室

でセンサを鳴らす」工作を行いました。

大人対象は神奈川大学が受け持ち「水の惑星といわれる地球誕生の不思議、水の不思議と大切さを学ぼう」というテーマで、市販されているミネラルウォーターの PH や誘電率などを測定器で測る実験も交えながら、講義が行われました。

「環境教育ディスカッション」には、東海大学の環境ワークショップの学生が 3 名、当会の近藤代表、地球っ子ひろばの斉藤さんなど 7 団体 9 名に参加していただき、各グループの活動を通じて、これからの環境教育をどのように考えていくか討論をしていただきました。

今回の仕掛けを手始めに、平塚の環境教育がさらに進展していくことを望んでいます。

松沢知事と 「かながわ県民活動サポートセンター協議会」 との懇談会

木本 光昶（横浜市）

「かながわ県民活動サポートセンター協議会」は、県民に開かれたサポートセンターを目指すため、利用者とサポートセンターが対等の立場で協議する場として、昨年 11 月に利用者とサポートセンターで設立された協議会です。

2 月 13 日（金）松沢知事はサポートセンターに来所され、「かながわ県民活動サポートセンター協議会」の利用者委員 19 名（私も利用者委員として参加）と引地サポートセンター所長との懇談会が開催されました。

[懇談会の内容]

始めに、知事から「今日は楽しみにしていた。神奈川県は NPO の先進県で他の県からも注目されている。[かながわボランティア活動推進基金 21]を設置するなど行政と NPO が力を併せて公共サービスを提供している。神奈川県を NPO 活動日本一にしたい。NPO との新しい政策についても現在

模索中であり、今日の懇談会の意見は今後の県政の参考とさせていただきたい」と挨拶がありました。

この後、協議会委員から福祉介護、国際交流、環境、DV など幅広い分野での活動紹介や知事に対する期待と要望、サポートセンターの利便性などについて意見などがありました。

最後に知事から「サポートセンターは地の利がよく利便性に優れている。最近、多くの市町村でも県民活動サポートセンターと同様の施設がつけられているが、広域自治体としての県は、ボランティア活動における市町村との役割分担が必要であり、広域施設として特化したものにしたい。皆さんの力でサポートセンターを育てていただきたいと思っている」とコメントがありました。

掲示板

部員募集（大気環境部会、水環境部会）

大気環境部会および水環境部会の設立に際して新規部会員を募集致したく、加入希望者は K・リーダー会の総会日（5 月 15 日）迄に下記部会担当世話人宛にご連絡ください。

部会担当世話人

大気環境部会：猪股 満智子

Tel・Fax：0467-32-6858

E-mail：km_inmt@ybb.ne.jp

水環境部会：斉藤 昭一

Tel・Fax：050-2009-6469

E-mail：sy6d-saitou@moon.odn.ne.jp

ホームページ・アドレスの変更

当会のホームページ・アドレスが変わりました。新しいアドレスは本会報末尾に記載のとおりです。

執筆者の表示

本誌の執筆者表示は氏名に加えて当会組織の役職、所属部あるいは修了期を用いておりますが、今号からは修了期に替えて居住地の市町

村名を表示します。

その理由は、修了期の重要性は小さいが市町村名は地域活動の面から重要性が大きいと考えからです。ご了解ください。

編集後記

今月号の会報に掲載した記事「秦野盆地の湧水群の名水復活」の取材のため、秦野市を訪れました。私は、現役時代、通勤のため横浜と東京を往復する毎日であったため、神奈川県は一部を除いて知らない地域が多く、秦野市もその一つでした。

丹沢山地と大磯丘陵に囲まれ、豊富な湧水群、多くのハイキングコース、閑静な温泉と公園に恵まれた自然豊かな町であることを知り、今回の取材によって素晴らしい体験をすることができました。

広報部 木本 光昶

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人：広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日：2004年4月10日

URL：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/